

吃音^{きうおん}について 理解深める

城北小4年生

諏訪市城北小学校4年生21人は17日、滑らかに言葉が出ない吃音^{きうおん}について学んだ。言語聴覚士の内藤麻子さん(51) 松本市から特徴や接し方について教わり、理解を深めた。

授業は、吃音のある児童の母親が、クラスメイトに吃音のことを知って受け止めてもらいたいと考え、担任に提案した。

内藤さんは、吃音の人は100人に1人の割合でいて、話す際に言葉が連続したり、音が伸びたりするのは緊張ではなく、「その人の持つて生まれた話し方」と説明。吃音で悩む児童の思いも映像で紹介し、「話し方ではなく、話す内容をよく聞いてあげてほしい」と呼び掛けた。児童たちはグループで当事

者の気持ちを話し合い、せかさず自然に接することの大切さを学んだ。

吃音のある児童は作文を読み上げ、「私のことを知らない人には、自分でも言うけれど、教えてあげてください。吃音を知る人が多くなってくれればいいです」と打ち明けた。

授業を終え、藤森七海さん(9)は「そういう人がいるのは知っていたけれど、吃音という言葉は知らなかった。一緒に話す時には気を配ってあげたい」と話していた。

(飛矢崎貴規)



吃音についてグループで話し合う城北小の児童